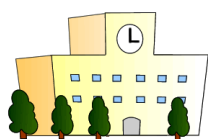


中学生と保護者のみなさんへ



中学校の評価について

河内長野市教育委員会
河内長野市立中学校校長会

令和3年度から、新しい学習指導要領のもとで中学校の全ての教育課程が実施されています。同時に、学習評価のあり方もそれまでと少し変わりました。1年生にとっては、初めてのことになりますが、小学校時とは違った表記の通知表となり、「観点別評価ABC」と「5段階の評定」で示されます。

文部科学省の示す中学校学習指導要領（学ぶべき内容が書いてあるもの）の各教科等の目標と内容が、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に沿って再編成され、観点別学習状況の評価については、9教科すべてにおいて、「**知識・技能**」「**思考・判断・表現**」「**主体的に学習に取り組む態度**」の**3観点**で評価しています。評定については、目標に準拠した5段階で示されます。

文部科学省が各教科や学年で学ぶべきことを示した学習指導要領の目標を、どの程度達成できたのか、その達成状況を観点別に見て、その3観点から5段階評定を出していきます。

各教科で、何がどれくらいできるようになったかを、どのような評価材料で見取っていくかは、各学校で示されますので、そちらをご覧ください。



I 観点別学習状況の評価は、3つの観点と5段階評定で見取ります。

各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況の評価していきます。

学習指導要領に示す目標や内容

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

観点別学習状況評価の各観点

観点ごとに、学習の達成状況を見取り、各観点においてA・B・Cの3段階で評価します。

知識・技能

思考・判断・表現

感性、思いやりなど

主体的に学習に取り組む態度

5 段 階 評 定

個人内評価

「学びに向かう力、人間性等」については、「主体的に学習に取り組む態度」として見取れる部分と、評定にはなじまない「感性、思いやり」などがあり、評定になじまないものについては、個人内評価として、文言や記述でお伝えすることがあります。

II 河内長野市内統一ルールについて

河内長野市立中学校では、大阪府教育委員会が定めた府内統一ルールに加えて、河内長野市教育委員会と中学校校長会、実際に評価を行う教員を構成員とする評価検討委員会において、さまざまな観点の協議を行い、市内中学校が同じ歩調で評定の算出を行うため下表の市内統一の基準を定めて評価をしています。

※文部科学省では「満足できる」という言葉を使っていますが、本市は「達成できている」に標記を変更しています。

観点別評価（A・B・C）

- 【 A 】 十分達成できていると判断されるもの （＝目標の75%に達しているもの）
- 【 B 】 概ね達成できていると判断されるもの （＝目標の45%に達しているもの）
- 【 C 】 努力を要すると判断されるもの （＝目標の45%に達していないもの）

評 定（5段階）

- 【 5 】 十分達成できていると判断されるもののうち、特に程度が高いもの
（＝目標の85%に達しているもの）
- 【 4 】 十分達成できていると判断されるもの （＝目標の75%に達しているもの）
- 【 3 】 概ね達成できていると判断されるもの （＝目標の45%に達しているもの）
- 【 2 】 努力を要すると判断されるもの （＝目標の20%に達しているもの）
- 【 1 】 一層努力を必要すると判断されるもの （＝目標の20%に達していないもの）

III 観点別学習状況の評価の仕方について

「知識・技能」の評価

個別の知識及び技能の習得状況について、知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。

ペーパーテストで、知識の習得を問う問題や知識の概念的な理解を問う問題などの結果や、実際に知識や技能を用いる学習場面を設け、様子を見取るなどして評価します。また、文章により説明させ、内容を見取ったり、観察・実験をさせたり、式やグラフで表現した内容を見取ったりします。

「思考・判断・表現」の評価

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動の中で見取ります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする態度や、その中で学習のめあてを考え、見通しをもって学習し、学習の結果を自ら振り返り、自己評価するなどの調整をしようとしているかについて評価します。

ノートやレポート等の記述内容、授業中の発言内容や行動観察、自己評価や相互評価の様子や記述内容などで見取ります。

〇〇ができるようになりたいなあ。

そのためには〇〇を学ぶ必要があるな。

勉強のやり方を少し変えてみよう。

勉強したけれど、〇〇も必要だぞ。